

農家から新たに乳用育成牛を導入

碓高原牧場では、府内の酪農家から後継牛となる雌乳牛（ホルスタイン種 2～8 か月齢、ジャージー種 8～14 か月齢）を導入後、和牛の受精卵を移植して受胎させ、分娩 1～3 か月前を目処に酪農家に譲渡する「乳用育成牛繁殖・譲渡事業」を行っており、今年度も 9 戸の酪農家から、24 頭（ホルスタイン種 22 頭、ジャージー種 2 頭）を牧場に迎えました。

当场では、全農哺育センターと連携した京都酪農牛づくり事業にも取り組み、府内での優秀な乳用後継牛の確保を支援するとともに、本事業で譲渡する乳牛が、酪農家で和牛子牛を分娩することにより、府内産和牛子牛の増産に繋がっています。



トラックから降りる導入子牛



放牧場で草を食む子牛たち

畜産センター
碓高原牧場